

Remark Office OMR[®]

Version 8

自動化ウィザードユーザズガイド

日本語版

株式会社ハンモック

改版履歴

版	日付	内容
初版	2013 年 09 月 12 日	新規作成

目 次

1.0 自動化ウィザードの概要.....	1
1.1 自動化ウィザードの使用.....	1
1.1.A 開始時のオプション	2
1.1.B フォームテンプレートを開く場合のオプション	3
1.1.C スキャナからの読み取りに関するオプション	5
1.1.D イメージからの読み取りに関するオプション	7
1.1.E 例外レビューのオプション	10
1.1.F データ保存オプション.....	11
1.1.G 分析オプション	12
1.1.H ファイル送信オプション	14
1.2 自動化ウィザードファイルの保存と実行.....	15

1.0 自動化ウィザードの概要

Remark Office OMR には、ソフトウェアの機能を自動化する自動化ウィザード(自動化ウィザード)があります。自動化ウィザードを使用して自動化ファイルを作成すると、その後に別のユーザーがそのファイルをダブルクリックするだけで自動処理が実行できるようになります。ソフトウェアを起動する、フォームテンプレートを開く、フォームを処理する、データを保存する、レポートを実行する、ソフトウェアを終了するなどの動作を自動化できます。この機能は、ユーザーの仕事を簡単にすることができるので便利です。

ヒント: 自動化ウィザードでは、ソフトウェアの基本機能を自動化できます。これらの機能については、Remark Office OMR ユーザーズガイドで説明しています。そのため、このガイドでは各機能について詳しく説明しません。個々の機能については、Remark Office OMR ユーザーズガイドを参照してください。

1.1 自動化ウィザードの使用

自動化ウィザードは、Remark Office OMR Data Center の内部からアクセスできます。これはウィザードベースのアプローチを用いて、専用の自動化ファイルを設定できるようにします。

自動化ウィザードを使用するには

- 1 Remark Office OMR Data Center で、[ツール] メニューを選択してから [自動化ウィザード] をクリックします。
- 2 [次へ>>] ボタンを使用すると、以下の項で説明する別の画面との間で移動できます。また、ウィザード画面の左側にあるタスク画面でリンクをクリックしてもかまいません。
- 3 ファイルの構築が完了したら、[保存] ボタンをクリックして自動化ファイルとして保存します。[保存] ボタンには 3 種類のオプションがあります。

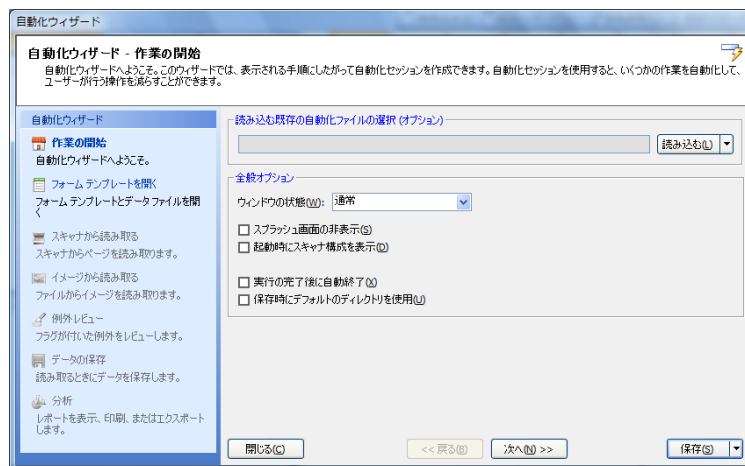
オプション	説明
保存	自動化ウィザードファイルを自動化ファイルとして保存します。このファイルはダブルクリックして実行するか、または他のアプリケーションから呼び出すことができます。このオプションを使用すると、自動化ウィザードは終了します。
実行	自動化ウィザードファイルを保存せずに実行します。この機能は、ファイル設定をテストする場合に便利です。
保存して実行	自動化ウィザードファイルを自動化ファイルとして保存し、同時に実行します。

自動化ウィザードファイル(.rez ファイル)を保存すると、その後はファイルをダブルクリックして、指定したパラメータでソフトウェアを起動できます。このファイルは、**Remark Office OMR** をインストールしたシステムのどこにでも保存できます。

ウィザードでは、実行する可能性のある手順の段階数に応じて、各手順がそれぞれ後に続くセクションに分かれます。

1.1.a 開始時のオプション

自動化ウィザードの開始画面では、ソフトウェアの全般的なオプションを設定できます。

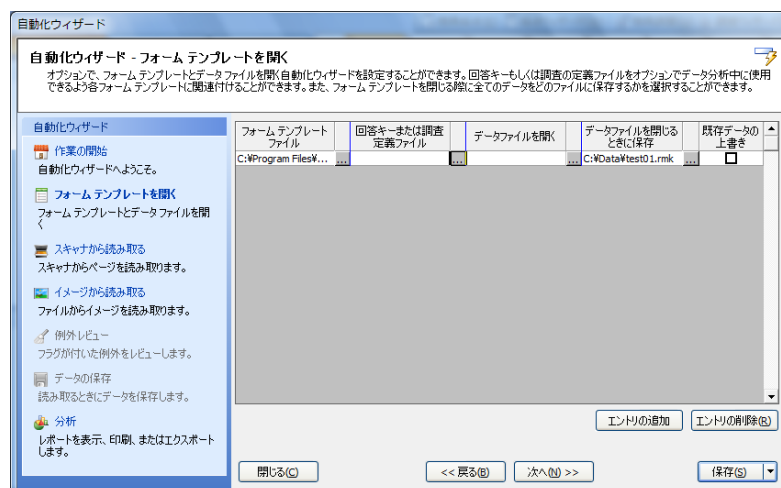


オプション	説明
ロード	<p>[ロード] ボタンには 2 種類のオプションがあります。</p> <p>[ロード] :以前に保存した自動化ウィザードファイルをロードし、変更または実行できるようにします。</p> <p>[新規] :自動化ウィザードの新規ファイルを作成できるようにします。</p>
ウィンドウの状態	<p>ソフトウェア起動時の Remark Office OMR ウィンドウの表示方法を設定します。</p> <p>[通常] :ソフトウェアをデフォルトの状態に表示します。</p> <p>[最小化] :ソフトウェアをデスクトップ上で最小化します。プロセスの実行中に、ユーザーが他の作業を継続しやすくなります。</p> <p>[最大化] :ソフトウェアを全画面に表示します。</p> <p>[非表示] :ソフトウェアを隠れた状態で実行します。ユーザーにはソフトウェアの実行が表示されません。ほとんどのプロンプトは抑止されます。</p>
スプラッシュ画面の非表示	<p>このチェックボックスをマークすると、ソフトウェアの初回起動時に表示されるスプラッシュ画面は表示されなくなります。</p>

オプション	説明
起動時にイメージスキャナの設定画面を表示	このチェックボックスをマークすると、ソフトウェアの起動時にスキャナのプロパティウィンドウが表示され、ユーザーがスキャナを設定できるようになります。
実行の完了後に自動終了	このチェックボックスをマークすると、自動化ウィザードファイルのパラメータをすべて実行した後に、Remark Office OMR は自動的に終了します。
保存時にデフォルトのディレクトリを使用	このチェックボックスをマークすると、データファイルと格納されたイメージは、ソフトウェアの 基本設定 で指定されたディレクトリに保存されます。

1.1.b フォームテンプレートを開く場合のオプション

〔フォームテンプレートを開く〕画面では、自動的に開くテンプレートと関連ファイルを選択できます。



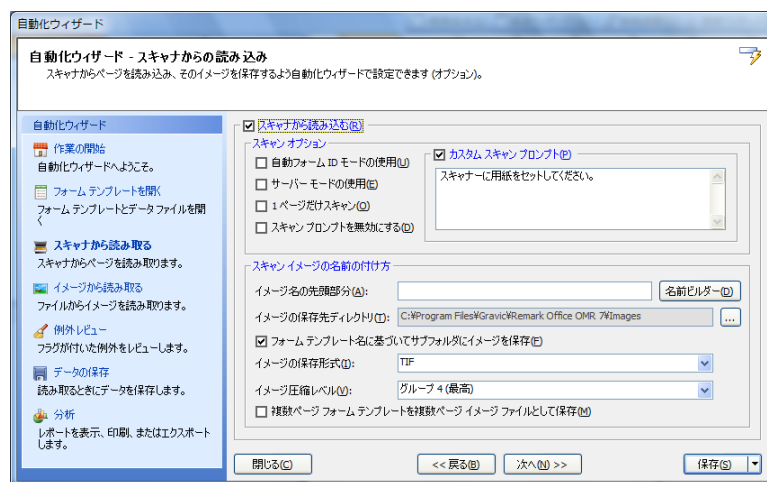
オプション	説明
フォームテンプレートファイル	省略記号(...)をクリックすると、自動的に開くフォームテンプレートを選択できます。フォームテンプレート(OMR)、バッチファイル(OBF)、Remark Office Archive ファイル(ROA)、Remark (RMK)データファイルを開くことができます。ROA および RMK ファイルを開く場合、関連付けられたフォームテンプレートファイルがデータファイルとともに自動的に開きます(そのためには、データを保存する際に、指定したファイルと同じ場所にフォームテンプレートファイルを保存する必要があります)。

オプション	説明
回答キーまたは 調査定義ファイル	<p>オプションとして省略記号(...)をクリックすると、既存の回答キーまたは調査定義ファイルを開くことができます。このファイルは、フォームの処理後に実行されます。[採点] および [調査] パラメータは、自動化ウィザードの最後の手順で指定します。このファイルでは、次のような数種類のオプションを使用します。</p> <p>1) 簡易採点または簡易調査を使用する場合、このファイルを使用して結果を生成します。</p> <p>2) 採点ウィザードを使用する場合は、自動化ウィザードの最後の手順で評価オプションを指定しないでください。その代わりに、自動化ファイルで回答キーファイルを指定した場合は、採点ウィザードを手動で実行する(たとえば、ツールバーボタン、タスクペインのオプション、メニューオプションをクリックするなど)と、指定した採点ウィザードファイルが自動的に開きます。[終了] をクリックするとデータが評価され、[次へ>>] をクリックすると、選択した採点ウィザードファイルの設定を続けることができます。</p> <p>4) 調査ウィザードを使用する場合は、調査ウィザードを手動で実行する必要があります(たとえば、ツールバーボタン、タスクペインのオプション、メニューオプションなどをクリックします)。指定したファイルが自動的に調査ウィザードにロードされます。[終了] をクリックしてデータを作表するか、または[次へ>>] をクリックして、選択した調査ウィザードファイルの設定を続けることができます。</p>
データファイルを開く	<p>省略記号(...)をクリックすると、自動的に開くデータファイルを選択できます。サポートされているファイル形式のいずれかを開くことができます。ROA および RMK ファイルを開く場合、関連付けられたフォームテンプレートファイルがデータファイルとともに自動的に開きます(そのためには、データを保存する際に、指定したファイルと同じ場所にフォームテンプレートファイルを保存している必要があります)。フォームを処理する前にデータを開くと、データファイルの末尾に新しいデータが追加されます。この場合、追加フォームを処理した後は、データファイル全体を上書きしても良いでしょう。</p>
データファイルを閉じる時に保存	<p>省略記号(...)をクリックすると、フォームを処理した後にデータを保存するデータファイルを選択できます。既存のファイルを選択しても、新しいファイル名を入力してもかまいません。開いているフォームテンプレートのデータは、ソフトウェアを終了する際に保存されます。</p>

オプション	説明
既存データの上書き	このチェックボックスをマークすると、自動化ウィザードファイルを実行する際に、毎回指定したデータファイルを上書きします。
終了するときにデータファイルの保存を指定するデータビルダー画面を表示する。	このチェックボックスにチェックマークを入れると、終了するときにデータビルダー保存画面が開きます。データファイル名と保存先フォルダ名をカスタマイズすることができます。
エントリの追加	【エントリの追加】 ボタンをクリックすると行が 1 行追加され、ここでさらに選択(別のフォームテンプレートを開く、データを保存するなど)できます。
エントリの削除	【エントリの削除】 ボタンをクリックすると、現在選択されているパラメータ行が削除されます。

1.1.c スキャナからの読み取りに関するオプション

【スキャナからの読み込み】 画面を使用すると、フォームのスキャンに使用するパラメータを選択できます。



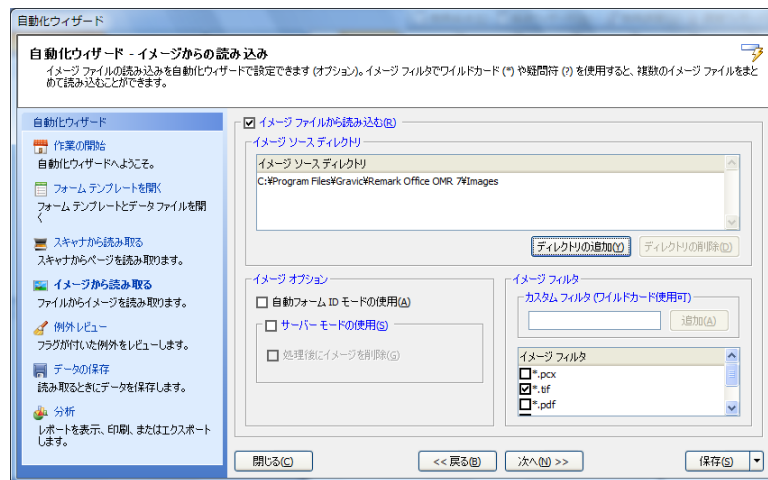
オプション	説明
スキャナから読み込む	このチェックボックスをマークすると、フォームテンプレートを開いた時にスキャナがフォームのスキャンを開始します。
自動フォーム ID モードの使用	自動フォーム ID モードでスキャンする場合は、このチェックボックスをマークします。この機能が適用されるフォームテンプレートは、自動フォーム ID フィールドが各ページにあり、複数のフォームを同時にスキャンできるものに限られます。

オプション	説明
サーバーモードの使用	サーバーモードでスキャンする場合は、このチェックボックスをマークします。サーバーモードでは、スキャナ上にフォームがあるかどうかをユーザー指定の間隔でポーリングするため、監視なしでスキャンができます。スキャナ上にフォームがあればスキャンされ、データが生成されます。
1 ページだけスキャン	スキャナに置かれた 1 ページのみをスキャンする場合は、このチェックボックスをマークします。
スキャンプロンプトを無効にする	このチェックボックスをマークすると、スキャンのプロンプトがすべて無効になります。スキャンは、ユーザーからの操作なしに開始されます。ADF が空になると、それ以上のプロンプトは表示せずスキャンが停止します。
カスタム スキャン プロンプト	カスタマイズした独自のスキャンプロンプトを入力する場合は、このチェックボックスをマークします。スキャン開始時に表示したいテキストを、チェックボックスの下ボックスに入力してください。
イメージ名の先頭部分	ここに入力した名前は、フォームがスキャンされる時に、フォームテンプレートに保存されるイメージファイルのベース名に使用されます。好きな名前を自由に使用できます。イメージが特定のフォームに属していることを表すような名前(フォームテンプレート名など)を使用することをお勧めします。保存されるイメージの名前はこのベース名で始まり、次にページ番号が続く(フォームテンプレートのページが複数ある場合)、その後に日時が付加されて、複数のイメージをトラッキングできるようになっています。【 イメージ名の先頭部分 】オプションを空白にしておくと、各イメージの名前は、ページ番号(該当する場合のみ)、日付、時刻のみになります。
イメージの保存先ディレクトリ	省略符号(...)をクリックして、このフォームのイメージを保存する位置を選択します。イメージ用のデフォルトディレクトリ(ソフトウェアの 基本設定 に保存)を使用することも、異なるディレクトリを選択することもできます。
フォームテンプレート名に基づいてサブフォルダにイメージを保存	このチェックボックスをマークすると、 Remark Office OMR はイメージを保存するフォルダを自動的に作成します。フォルダ名はフォームテンプレート名になり、そのフォルダは【 イメージの保存先ディレクトリ 】ボックスで選択したディレクトリに作成されます。

オプション	説明
名前ビルダー	<p>【名前ビルダー】 ボタンを使用すると、アクティブなデータセットから値を取得して、スキャンしたイメージファイルのベース名と保存フォルダ名をカスタマイズすることができます。イメージのベース名では、処理されたデータのフィールド名を、ファイルのベース名に追加するように設定できます。ドロップダウンリストからフィールドを選択して、【追加】 ボタンをクリックします。たとえば、テストを処理する場合、フォームから取得した学生名のフィールドを追加して、データファイル名がすべて学生名で始まるようにすることができます。</p> <p>【イメージの保存先ディレクトリ】 の部分では、処理されたデータのフィールドを、データファイルを含むフォルダ構造に追加するよう設定できます。ドロップダウンリストからフィールドを選択して、【追加】 ボタンをクリックします。たとえば、テストを処理する場合、フォームから取得した教員名と学生名のフィールドを追加して、各学生のデータを教員名のフォルダに保存し、さらにその中で学生名のサブフォルダに分類するということができます。</p> <p>名前ビルダー画面の OK ボタンをクリックして自動化ウィザードの画面に戻ります。</p>
イメージの保存形式	<p>イメージの保存に使用するイメージのタイプを選択します。選択できるタイプは PCX/DCX、TIF、PDF です。</p>
イメージの圧縮レベル	<p>PDF または TIF 形式で保存する際には、圧縮率を【非圧縮】、【グループ 3】、【グループ 3 2d】、【グループ 4】の中から選択します。【グループ 4】の場合、最も圧縮率の高い(ファイルのサイズが最小の)イメージが作成されます。</p>
複数ページフォームテンプレートを複数ページイメージファイルとして保存	<p>このチェックボックスをマークすると、複数ページのフォームテンプレートをスキャンする場合に、すべてのイメージが 1 つのフォーム上で完結して 1 つのイメージとして保存されます。</p>

1.1.d イメージからの読み取りに関するオプション

【イメージからの読み込み】 画面を使用すると、格納したイメージファイル进行处理するパラメータを指定できます(たとえば、多機能周辺機器でフォームをスキャンし、イメージファイルとして保存して Remark Office OMR が処理できるようにするなど)。

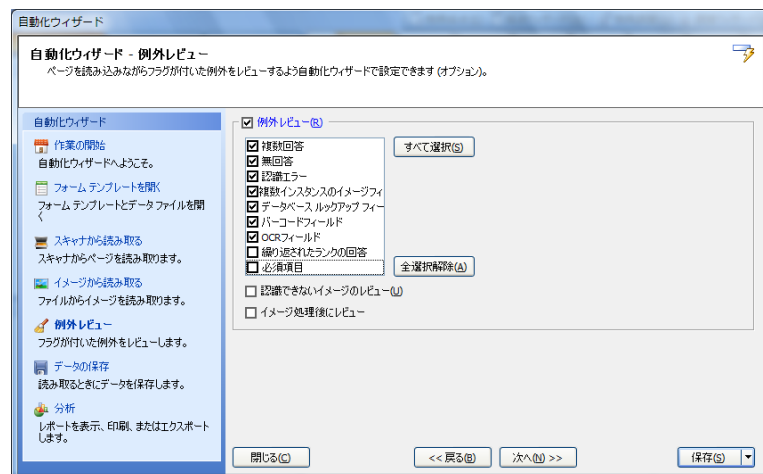


オプション	説明
イメージファイルから読み取る	スキャンしてイメージファイルとして保存しておいたイメージを処理する場合は、このチェックボックスをマークします。
ディレクトリの追加	【ディレクトリの追加】 ボタンをクリックして、検索ディレクトリを【イメージソースディレクトリ】ボックスに追加します。このボックス内にリストされたディレクトリでは、処理対象のイメージファイルの検索が行われます。
ディレクトリの削除	【イメージソースディレクトリ】 ボックスでディレクトリを選択した後に【ディレクトリの削除】 ボタンをクリックすると、イメージファイルを処理する際に、そのディレクトリが検索対象から削除されます。
自動フォーム ID モードの使用	自動フォーム ID モードでイメージを処理する場合は、このチェックボックスをマークします。この機能が適用されるフォームテンプレートは、自動フォーム ID フィールドが各ページにあり、複数のフォームを同時にスキャンできるものに限られます。
サーバーモードの使用	サーバーモードでイメージを処理する場合は、このチェックボックスをマークします。サーバーモードでは、指定したディレクトリにイメージがあるかどうかをユーザー指定の間隔でポーリングするため、監視なしでイメージ処理ができます。イメージがあれば処理され、データが生成されます。

オプション	説明
処理後にイメージを削除	サーバーモードを使用する場合、このチェックボックスをマークすると、イメージが処理後に削除されます。この機能を使用すると、イメージはコンピュータから完全に削除されるので注意してください。ただし、イメージが残っている状態でサーバーモードを停止して再開した場合、イメージはもう一度処理されます。
カスタムフィルタ	<p>【カスタムフィルタ】ボックスを使用すると、【イメージフィルタ】リストをさらに細かく指定できます。イメージフィルタは、処理したいイメージファイルのタイプを表しています。ここでは、ワイルドカードを用いて特定のケースを指定できます。たとえば、「English 101」で始まるイメージをすべて処理したい場合は、カスタムフィルタとして「English 101*.*」と入力します。その文字で始まるイメージのみが処理されます。【カスタムフィルタ】ボックスにカスタムフィルタを入力して、【追加】ボタンをクリックします。そのフィルタが【イメージフィルタ】リストに追加され、自動的に選択されます。イメージタイプを指定する場合、拡張子の指定にアスタリスク(*)を使用すると任意数の文字を指定でき(たとえば、.jp*の場合は.jpg や.jpeg のように“jp”の後に何文字あってもかまいません)、疑問符(?)を使用すると任意の 1 文字を指定できる(たとえば、.jp?の場合は.jpg のように 3 文字を表します)ことに注意してください。</p>
イメージフィルタ	処理したいイメージのタイプに対応するチェックボックスをマークします。これらのファイルタイプに一致するイメージのみが読み取られ、他のイメージは無視されます。

1.1.e 例外レビューのオプション

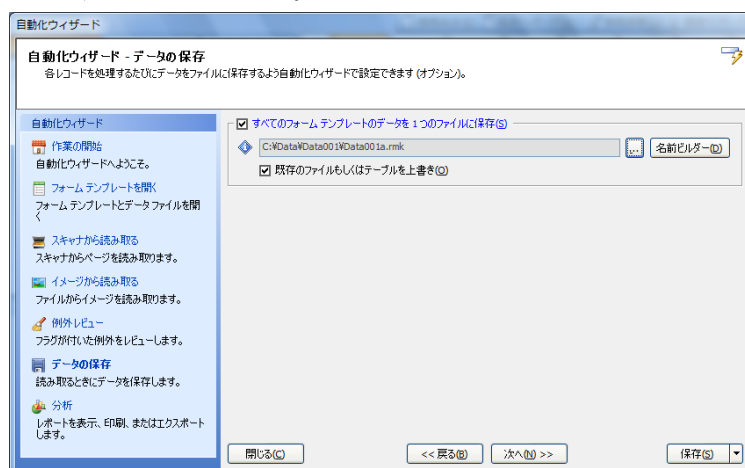
「例外レビュー」ウィンドウでは、フォーム処理中に**例外レビュー**機能を使用するかどうか、またどのようなケースを確認するかを指定できます。



オプション	説明
例外レビュー	<p>このチェックボックスをマークすると、フォームの処理中(スキャン中またはイメージファイルの読み取り中)に例外レビュー機能がアクティブになります。選択した例外ケースが発見されると、そこで処理が中断され、ユーザーの判断が求められます(例外を訂正することも、訂正せずに処理を続けることもできます)。次の例外ケースが使用できます。</p> <p>複数回答 無回答 OMR 認識エラー 繰り返された Rank の回答 OCR 認識エラー イメージフィールド データベースルックアップフィールド バーコードフィールド 必須項目</p>
認識できないイメージのレビュー	<p>フォーム ID、ページ ID、回答者トラッカーIDを含むフォームを処理する場合は、このチェックボックスをマークします。フォームテンプレート、フォームテンプレートページ、回答者のいずれかがイメージと一致しない場合、処理は中断され、ここでフォーム、ページ、回答者を特定できます。</p>

1.1.f データ保存オプション

【データの保存】画面を使用すると、フォームを処理する際の保存オプションを指定できます。各ページを処理する際に、データは指定したファイルに直接書き込まれます。この機能を使用すると、フォームを処理するたびに外部ファイルにデータを送り、そのデータに別の操作を行えるようになります。フォームの処理後に加えられた変更は、このファイルには書き込まれません。



オプション	説明
すべてのフォームテンプレートのデータを1つのファイルに保存	このチェックボックスをマークすると、収集されたデータはすべて1つのファイルに保存されます。省略符号(...)をクリックすると、既存のデータファイルを選択するか、または新しくファイル名を入力できます。ファイルを選択すると、そのファイルを上書きするか、毎回末尾にデータを追加するかを確認されます。
既存のファイルもしくはテーブルを上書き	このチェックボックスをマークすると、自動化ウィザードファイルを実行する際に、毎回選択したデータファイルを上書きします。

名前ビルダー

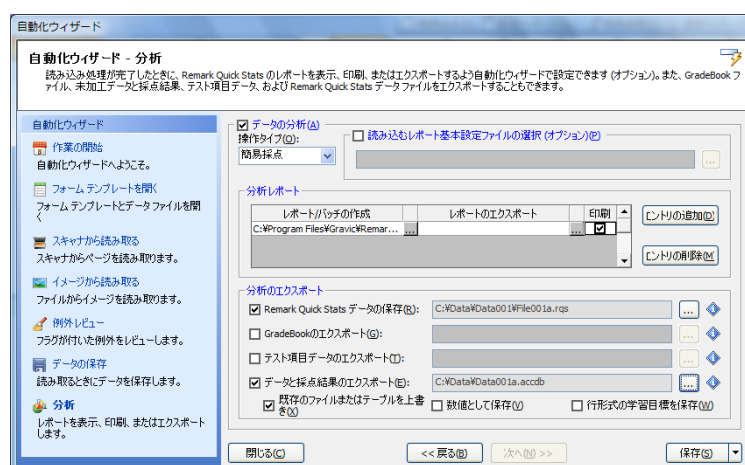
「名前ビルダー」ボタンを使用すると、データファイルの命名と保存方法をさらにカスタマイズできます。「ファイル名」の部分では、処理されたデータのフィールド名を、ファイルのベース名に追加するように設定できます。ドロップダウンリストからフィールドを選択して、「追加」ボタンをクリックします。たとえば、テストを処理する場合、フォームから取得した学生名のフィールドを追加して、データファイル名がすべて学生名で始まるようにすることができます。

「保存先ディレクトリ」の部分では、処理されたデータのフィールドを、データファイルを含むフォルダ構造に追加するよう設定できます。ドロップダウンリストからフィールドを選択して、「追加」ボタンをクリックします。たとえば、テストを処理する場合、フォームから取得した教員名と学生名のフィールドを追加して、各学生のデータを教員名のフォルダに保存し、さらにその中で学生名のサブフォルダに分類するということができます。

1.1.g 分析オプション

自動化ウィザードは、Remark Quick Stats を使用してレポートを作成できます。評価または調査の実行、レポートの保存とエクスポートなどができます。

注:Remark Quick Stats についての詳細は、PDF 形式の Remark Quick Stats のユーザーガイドを参照してください。このガイドは付属 CD 内の「日本語ガイド」フォルダ内にあります。



オプション	説明
データの分析	データの分析を実行するには、このチェックボックスをマークします。
操作タイプ	リストから [簡易採点]、[簡易調査]、[採点ウィザード]、[調査ウィザード] のいずれかを選択すると、そのタイプの分析が自動的に実行されます。
ロードするレポート基本設定ファイルの選択	このレポートに使用する Remark Quick Stats の 基本設定 を設定します。これらの 基本設定 は、別にインストールしてある Remark Quick Stats からエクスポートして、ここで使用できます。このレポートで使いたい 基本設定 が、この Remark Quick Stats ですでに使用している場合、このオプションはとばしてもかまいません。
レポート/バッチの作成	省略記号(...)をクリックして、生成したい個別レポート(.rpx)またはレポートのバッチファイル(.rbwx)を選択します。レポートのバッチは、Remark Quick Stats でレポートバッチウィザードを使用して作成されます。このウィザードを使用すると、個別に選択しなくても複数のレポートを生成、印刷、エクスポートできます。 注: レポートのバッチを選択すると、エクスポートと印刷のオプションは選択できなくなります。これらのオプションはバッチファイル内で設定するためです。
レポートのエクスポート	省略符号(...)をクリックして、レポートをエクスポートするファイルタイプと位置を選択します。
印刷	このチェックボックスをマークすると、レポートは表示後に印刷されます。
Remark Quick Stats データの保存	このチェックボックスをマークすると、Remark Quick Stats のデータは RQS ファイルとして保存され、Remark Quick Stats の内部で再度使用できるようになります。次に省略記号(...)をクリックして、ファイルを保存する位置を選択します。
GradeBook のエクスポート	このチェックボックスをマークすると、評価結果は GradeBook ファイルにエクスポートされます。次に省略符号(...)をクリックして、ファイルを保存する GradeBook のタイプと位置を選択します。

オプション	説明
テスト項目データのエクスポート	このチェックボックスをマークすると、評価結果はテスト項目データファイルにエクスポートされます。次に省略符号(...)をクリックして、保存するファイルのタイプとファイルの位置を選択します。
データと採点結果のエクスポート	このチェックボックスをマークすると、データと採点結果がファイルにエクスポートされます。次に省略符号(...)をクリックして、保存するファイルのタイプとファイルの位置を選択します。既存のファイルを上書きしたい場合は、 「既存のファイルまたはテーブルを上書き」 チェックボックスをマークします。データセットと等価な数値のデータセットを保存したい場合は、 「数値として保存」 チェックボックスをマークします。行ベースのファイルに学習目標を保存する場合(学生ごとの学習目標がデータレコードになります)は、 「行形式の学習目標を保存」 チェックボックスをマークします。

1.1.h ファイル送信オプション

自動化ウィザードでは、送信ウィザードの設定ファイルを読み込んで、分析結果やデータファイルを FTP サイトに転送したり E メールで送信したりすることができます。自動化ウィザードの内部で設定ファイルを使用する前に、送信ウィザードに関する説明を読んでおくことを強くお勧めします。送信ウィザードの設定ファイルを保存すると、自動化ウィザードの**「ファイル送信」**画面を使用して設定ファイルを読み込めるようになります。(自動化ウィザードから、送信ウィザードの設定ファイルを新しく作成することもできます。)



送信ウィザードの設定ファイルを読み込むには

- 4 [ファイル送信] ウィンドウで、省略記号をクリックして送信ウィザードを起動します。
- 5 送信ウィザードの設定ファイルを新しく作成するか、または[読み込む] ボタンをクリックして既存の設定ファイルを選択します。
- 6 (オプション) 新しく設定ファイルを作成する場合は、送信ウィザードの内部で必要な操作を実行します。
- 7 [保存] ボタンをクリックして設定ファイルを保存します。
- 8 (オプション) [エントリの追加] または [エントリの削除] ボタンをクリックして、送信ウィザード設定ファイルを自動化ウィザードから追加(あるいは追加したファイルを削除)します。

送信ウィザード設定ファイルを読み込んだ状態で自動化ウィザードに戻ります。

1.2 自動化ウィザードファイルの保存と実行

自動化ウィザードファイルを作成した後、[保存] ボタンをクリックするとファイルを保存できます。また、[保存] ボタンのドロップダウン矢印を使用すると、保存せずに実行するか(ファイルのテストなど)、または[保存して実行] でファイルの保存と実行を一度に選択できます。自動化ウィザードファイルを保存すると、.rez という拡張子が付けられます。このファイルは、実行可能ファイルと同じようにシステムに保存できます。ダブルクリックすると、.rez ファイルに組み込まれたコマンドが起動されます。